

大阪府立千里高等学校
令和元年度 第2回学校協議会 会議記録

○ 日時 令和元年 12月 23日 (月) 16:00~17:00

○ 会場 校長室

○ 出席者

(学校協議会委員)

和田 良彦 大阪教育大学 副学長 教授

小林 太郎 吹田市立竹見台中学校 校長

大森 万峰子 千里高校 学校薬剤師

木村 功 PTA 会長

橋本 和正 後援会会長

(学校側)

校長 天野 誠 事務長 青枝 久仁子 首席 大西 千尋 進路指導部長 本間 直也

SSH 主担当 岩井 清 国際科学教育部長 渡邊 肇

(事務局)

教頭 山下 尚紀 教育情報部長 松井 活夫

○ 議事概要

(1)学校経営計画の進捗状況

- ・SDG s を実践できる人材の育成 課題研究を軸とし、一般教科とも連携をとりつつ課題解決力の育成に努めている。
- ・教員の指導力向上 SDG s に関する公開学習会、公開授業研究会を開催し課題解決型学習、パフォーマンス課題に重点をおいた授業の研究を重ねている。
- ・タブレット端末を利用した授業の研究開発を、研修会も行いつつ続けている。他校からの視察も多い。

(2)SGHおよびSSHの取り組み

◇ SGH事業

- ・2年生の探究活動では食品ロスに関する具体的活動を行ったり、大学のゼミに参加したりするなどの実践を伴った研究活動が増えてきた。
- ・10月に国際シンポジウムを実施し、環境問題に関してカンボジアやフランスの留学生、台湾からの招待生を交えて研究発表、意見交換の場を設定し生徒は刺激を得た。
- ・SGH 指定終了後はNY研修を廃止するものの、企業訪問やTAによる論文指導などは学年費や参加者負担で継続予定

◇ SSH事業

- ・科学探究の授業ではテーマ設定を、SDG s を軸とした社会に還元できる課題として取り組ませる。
- ・FSG 生徒の活動 放課後不定期に活動。1年生の生徒は研究班に分かれて活動。他の生徒に研究会への参加などを促し、面白さを伝える効果を発揮。SDG s に関する取り組みを意識させる傍ら、科学的な基礎知識も定着させる。今後は校外のコンテストに参加する機会を増やす。
- ・校外での研修としてカリフォルニアやボストン、北海道で実施。台湾高級中学とは連携体制をとっている。
- ・11月6日に行われた文部科学省でのSSH 中間ヒアリングでは特にFSGの活動や校内での全体化に関心が示され、校外や地域に貢献することや効果的な評価法の公開などが求められた。

(3) 希望進路の実現

- ・家庭学習状況調査を実施し分析 授業改善に反映させる。
- ・土曜講習のあり方の検討 時期・定着度に合わせた効果的な講習内容を検討中。

(4) 令和2年度使用教科書選定作業について

- ・一覧表を提示

○ 協議

- ・学校教育自己診断の結果において、授業への意欲、教員への信頼度ともに2年生が他学年比べ低い数値が出ている。原因を調べ今後の指導支援に活かしてほしい。
- ・タブレットを効果的に活用できるよう、生徒の定着度に応じた利用ができるような方法を考えてほしい。
- ・教科書採択については選定理由を付してほしい。

第3回の開催について 2月27日(木)を予定